

かくどけい

KAKUDOKEI 2013

107号



広報誌「かくどけい」
平成 25 年 1 月 28 日 発刊



- 001 巻頭言 「平成24年を振り返り」 三宮 克彦
- 002 理事会報告
- 004 各部・委員会報告
 学術部
 教育部
 表彰審査委員会
 生涯学習部
 学術事業部
 渉外部
 規約審議委員会
 法人事業審議委員会
 事業部
 宣伝部
 調査資料部
- 009 公益信託 玉井記念整形外科研究助成基金 平成25年度 募集要項
 学会・研修会のお知らせ「運動による認知症予防・改善」・「ハート先生の心電図セミナー」
- 010 くまもと北から南から
- 012 第17回 熊本県理学療法士学会のお知らせ
- 013 事務局だより
- 014 大観望 「秋の古都」 河島 英夫
 「上手な文章が書きたいなあ～」 福島 芳子
- 015 他士会便り 「働き者と怠け者」 神奈川県 No.248
- 016 学術事業部文献紹介
- 018 学会・研修会印象記
- 019 くまもとの理学療法情報 PT Walker 熊本
- 020 医療・介護ナビ お役立ち便利グッズ紹介
- 021 よろず運動療法相談所 ～スポーツ小委員会～ 「フルマラソンを走る」
- 022 賛助会員一覧
 編集後記
- 023 事業予定表

熊本県理学療法士協会広報部では皆様からの投稿をお待ちしております。医療や介護に関するトピックスや学会・研修会・勉強会の情報など理学療法士として伝えたい情報をお寄せください。

発行 奇数月の月末 6回/年

投稿の方法 協会事務局に原則としてメールで送付してください。

原稿の採択 「投稿規定」に則りその内容を検討し、掲載可否について審議し決定します。なお掲載にあたり、広報部より誌面の関係上原稿について執筆者との協議を通じて、内容の変更をお願いすることがあります。

お問合せ先 (社) 熊本県理学療法士協会事務局

TEL 096-389-6463

E-mail kpta_kat@mtg.biglobe.ne.jp



『平成 24 年を振り返り』

理事 三宮克彦（熊本機能病院）

新年あけましておめでとうございます。平成 25 年巳の年を健やかにお迎えのことと思います。

平成 24 年はどのような年だったのでしょうか？。私なりに振り返りますと、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災からの復興を思いながらのスタートでございました。5 月には国内の原子力発電所がすべて停止し、国全体で省エネ・クールビズが推奨された一方、熱中症に倒れる高齢者の増加がトピックスになりました。5 月、世界一の高さの鉄塔「東京スカイツリー」が開業、その後ロンドンオリンピックとパラリンピックで日本選手の活躍が日本全体に勢いをつけました。国際的には、TPP 問題で国が二分し、竹島問題、尖閣諸島国有化、オスプレイ配備等で関連国家との摩擦が強まりました。これらのことも関連してか、11 月には衆議院解散、総選挙が行われました。また同じ時期に、医療・福祉関係者はノロウィルスに震撼させられました。熊本では 4 月 1 日、政令都市に移行した熊本市の活性化の機運が高まる中、7 月 12 日の九州北部豪雨は白川水系や菊池川水系の河川が氾濫し、熊本県内だけでも死者 23 名、行方不明者 2 名と甚大な被害をもたらしました。列举するとこの一年間でも様々なことがあり書ききれませんが、これらは今後の医療に少なからず影響を与えるというのは考えすぎでしょうか？。

4 月の診療報酬・介護報酬の同時改定は、限られた財源から重点項目が中心となり、必要と思われるすべての分野に予算が分配されたとは言い難いかもしれません。しかし、2025 年に向かってこの国は高齢者の増加と生産人口の減少が進んでおり、国民全体のパラダイムシフトが要求されているとも思います。このような中、来る 4 月 1 日には私たち熊本県理学療法士協会は、一般社団法人から公益社団法人へ移行いたします。私たち熊本県理学療法士協会は理学療法を通して、これまで以上に関連医療職の皆様との連携を密に県民の皆様様の健康生活に広く尽力させていただき所存です。これからもご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。

【理学療法士の皆様へ】

理学療法士及び作業療法士法が制定されたのは昭和 40 年、今年と同じ干支の年です。次の巳年は職種として還暦の年、奇しくもこの年は現在医療・福祉業界で課題としてあげられている 2025 年になります。今一度日本の医療における理学療法士の役割と課題を見据え、関連職種の皆様のご協力をいただきながら社会のために努力してまいりましょう。何が正しいかは誰もわかりません。しかし、先輩たちが築いてきた日本の医療・保健・福祉やリハビリテーションがその時々々の情勢に合わせ変化してきたことは確かです。「運命は私たちが作るものである。今からでも遅くない。いまをどう生きるかで未来が決まる。」インドの独立の父として知られるマハトマ・ガンディーの言葉です。このスローガンに同調した人たちの努力の積み重ねが現在のインドの経済成長を支えています。我々もいまを大事に、そして将来を見据え、何ができるのか、何をすべきかを考え行動しましょう。



理事会報告

平成24年度第8回理事会議事録（要約版）

日時：平成24年10月10日（水）19：10～20：35

場所：熊本総合医療リハビリテーション学院

出席者：

（理事）北里・大島・坂崎・飯星・大脇・川上・

佐藤・田島・野間・増田・光本

（監事）寺川

（事務局員）山内 （事務職員）石黒・前田

欠席者：

（理事）前田・三宮・筒井・野津原

（監事）中島 （相談役）森重

（事務局員）山本・福島・久米野・坂本

書記：杉本・山口（熊本セントラル病院）

1. 報告事項

1) 特別委員会報告

◇公益法人対策特別委員会

（坂崎）特に報告事項はない。

◇情報共有推進化特別委員会

1) 公益法人化に伴うホームページ刷新には、組織改編は11月までに確定が必要である。

2) 組織変更に伴うシステム変更以外に部・委員会からのシステムについての要望を受け付ける。

（田島）2013年4月1日までに改変を行うこととし、2012年11月には新組織図をある程度完成させて頂きたい。要望と変更点をもとに、再構築を進める。

◇訪問リハ対策特別委員会

（大脇）訪問リハ実務者研修会は9月23日をもって全て終了。10月22日に訪問リハ協議会を開催予定。

（増田）第39回市民公開講座のシンポジウムが、9月29日（土）に開催、約200名の参加。

◇渉外活動推進特別委員会

（坂崎）第2回の熊本城マラソンへのボランティア参加について大会事務局との調整。

◇組織検討特別委員会

（会長）9月24日に分野別小委員会との会議を開催。

2) 連携学会について

【野間理事】

第6回連携学会は3月2日に決定。鶴屋ホールカーネーションホール（200名）。居宅支援連携部会の分科会の責任者に当協会が選出された。

3) 平成24年度「熊日・スミセイさわやか介護セミナー」について

【光本理事】

日時：平成24年12月1日（土）13：30～16：00

場所：熊日会館 内容：調整中

4) 平成24年度事業計画等の修正・変更について

○糖尿病小委員会研修会

【変更前】テーマ：調整中

【変更後】テーマ：

「あなたならどう診・見ますか？」

～糖尿病患者の理学療法～

○第2回新人研修会

【変更前】

講師：森重康彦、前田比呂志、他調整中

テーマ：「統計方法論」

「症例報告・発表の仕方」

「社会の中の理学療法（政策含む）」

「生涯学習と理学療法の専門領域」

「理学療法の研究方法論（EBPT含む）」

【変更後】

講師：筒井宏益、佐藤亮、大脇 秀一、

前田比呂志、田島徹朗、飯星雅朗

テーマ：「一次救命処置と基本処置」

「クリニカルリーズニング」

「生涯学習と理学療法の専門領域」

「理学療法の研究方法論」

「統計方法」「症例検討・発表の仕方」

○第7回臨床実習教育研修会

【変更前】期 日：平成25年1月6日・20日・27日

【変更後】期 日：平成25年2月3日（日）

○第44回市民公開講座

【変更前】

場 所：熊本総合医療リハビリテーション学院

テーマ：「使える福祉用具～トランスファー～」

【変更後】

場 所：（株）くますま

テーマ：「使える福祉用具の理論と体験講座

～ベッド周辺から移乗、車いす～」

（会長）第44回市民公開講座に関しては、12月2日に開催予定。

5) その他報告事項

（会長）全国都道府県理学療法士会会長会議報告。1点目は、理学療法のエビデンス構築や職務の裏付けのためのデータベース構築および有効活用について。2点目は、新人教育プログラムに関する標準テキストの弾力的な運用について。3点目は、将来的な給与の維持・向上に関する制約に関して。4点目

は、新人の入会金が来年度からも半額が日本理学療法士協会へ、残りの半額は都道府県士会へ入るということ。

2. 協議事項

1) 上半期事業監査日程の調整について

【事務局】

10/30(火)以降で両監事と調整。

2) 連携学会の居宅支援連携部会のテーマ及び講師について

【野間理事】

連携学会の居宅支援連携部会のテーマと講師を次回の企画委員会(12/7)までに決める必要性あり。当部会は、地域包括ケアシステムをテーマとする。80分の制限時間を藤川氏(医師会)とパネリストとのディスカッションを考えているが、よろしければ交渉に入りたい。

(会長)次回理事会までにテーマや人選を含め案を提出、その内容をもって議論する。

3) 健康増進月間(9/1~9/30)における健康づくりのための取組について

【事務局】

※回答〆切: 10/17(水)

(坂崎)日本理学療法士協会から平成24年度の健康増進月間について報告依頼であるが、担当者の意見も聞いたが今年度は報告事項はなしとする。

4) 復職支援事業アンケートについて【厚生部】

復職支援事業についてのアンケートを作成した。会員を対象に実施予定。(自宅会員は送付、その他会員はホームページ上で)

(光本)今年度は復職支援事業に関するアンケートを、離職した方で自宅会員へ送付することを検討していた。

(光本)厚生部内での検討として、復職支援事業を医療機関や施設で実習や研修という形を設けたいとの意見も挙がった。

(佐藤)研修会の案内を行なう等で対応をしていきたい。こういった事業であればすぐに展開を始めることができるのではないかと考えられるので、このようなアンケート内容とした。

(会長)これは復職支援事業を開始する前段階として、どの情報が欲しいのか調査をして、復職支援事業の内容を固めていく目的で行なっていく。この内容でアンケートを行うということでした承をしたい。その他に気づく点などがあつた場合には、今週中に光本理事へ報告をするように。

5) 新人懇親会についての企画案とその予算について(第7回理事会継続審議)

【厚生部】

(光本)懇親会の参加費に関して予算での補助はしない方向。

(会長)前回の理事会で懇親会だけの実施ではいけないのではないかと監事から指摘。第一回目の新人研修会として研修を行なってそのあとに懇親会をやる形で検討。内容は、「協会の組織と新人教育システム」「熊本県理学療法士協会および日本理学療法士協会の組織の構成とその関係」「県の連盟と全国協会の連盟との関係」「当該年度の事業計画」などの説明を行う。加えて各部の紹介と勧誘を行う。時間としては、3時間~3時間半程度を予定。その後任意の参加ということで懇親会を行うという形にしたいと考えている。

○特定保健指導における保健師への指導について(第7回理事会継続審議)

【増田理事】

※次回以降検討

(増田)十分な内容を検討していないため次回以降内容をそろえて報告する。

○広報誌「かくどけい」のリニューアルについて(第4回理事会継続審議)

【佐藤理事】

※次年度検討

(会長)現在、かくどけいは一般会員向けへの広報誌として、平成26年度以降は会員向けではなく一般向けとして行っていく。それについての検討は来年度から行っていく。

(坂崎)この二つの規程(広報誌「かくどけい」投稿規程、ホームページ投稿規程)は本日の日付をもって改定されたということによいか。

(会長)それでよい。

3) その他

(田島)ホームページの改訂に関して予算枠を提出するにあたり通常の年度予算で提出するのであれば12月中までに組織の方向性を決めて頂かなければ予算を提出できない。特別予算枠として別途で計上するという事であればそれでも可能かと思うが最終的にどちらで検討すればいいか。

(会長)一応特別予算を組むという事で。

(坂崎)会費未納のリストを入れているので確認いただきたい。

(会長)是非周囲に声かけをお願いする。

以上、閉会。

各部・委員会報告

学 術 部

部長 今屋 将美

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

皆様は年始にあたりどのような抱負を掲げられたでしょうか。私は体調管理に務め心身ともに健康で一年を過ごすことと「第2回熊本城マラソン」の完走を誓いました。

さて、昨年12月を持ちまして今年度の学術部の事業はすべて終了いたしました。今年度は例年になく多くの方々に申し込みをいただき、キャンセル待ちも発生するなど皆様の多大な関心が寄せられました。残念ながら受講に漏れてしまった会員の方も多くおられたと思われまふ。次年度は出来るだけ公平に多くの会員が参加の機会を持てるように検討してまいりますので、引き続き研修会へのご協力を宜しくお願ひ致します。

《活動報告》

『第3回学術研修会』終了

テーマ：「関節機能解剖と肩関節障害」

講 師：林 典雄 先生(中部学院大学

リハビリテーション学部 理学療法学科)

日 時：平成24年11月24日(土)～25日(日)

会 場：九州中央リハビリテーション学院

運動療法室

参加者：37名(会員36名、会員外OT1名)

所 感：今回開催された平成24年度第3回学術研修会は、運動器超音波解剖、運動療法技術等、整形外科領域で著名な林典雄先生をお招きし、『関節機能解剖と肩関節障害』と題して、肩関節に焦点を絞り、臨床で実践可能な内容を中心にご講義頂きました。本研修会は、肩関節を司る筋肉や靭帯、関節包や神経等、より深部までの組織を林先生の説明に加え、超音波動画と併せて講義して頂きました。その都度、実技を交え

て分かりやすくご講義頂きました。今まで、紙面や標本でしか見る事が出来なかった関節の動きや筋肉を超音波でより詳しく見る事により正しい関節運動の方法を学ぶ事が出来ました。受講生のアンケートからも「明日から臨床で活かせる内容だった」「患者様で悩んでいた事のヒントになった」など満足のいく研修だったと思います。本講習会における内容は、現場で即実践できる技術ばかりであったため、本受講者がここで学んだ技術を今後の臨床で活用されることを切に願ひます。

(報告者：介護老人保健施設リバーサイド御薬園
津田英男)



平成24年度は皆様のご協力のおかげで有意な活動ができました。平成25年度の事業予定も骨子が決まっております。次年度も変わらず会員皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

教育部 部長 前田 英兒

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

7月11日～14日にかけて起こった九州北部豪雨では、県内でも阿蘇市を中心に多くの方々が被災されました。心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

教育部 部員一同

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

教育部の前田です。少し遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。本年も変わらずよろしくお願い申し上げます。

さて、教育部では、来年度に向けて、事業計画・予算(案)を策定中です。生涯学習システム改変に伴う事業の大幅な見直しを行っております。出来る限り協会ホームページを通じて情報発信をしておりますので、ログインIDの登録、ならびに公益社団法人日本理学療法士協会(以下：JPTA)のマイページ登録をよろしくお願い致します。

☆各班の活動です

◎卒後教育班:各ブロック・地区での卒後教育研修会(初級編・中級編)は、皆様のご協力の下、今年度の予定事業が終了いたしました。卒後教育班では、来年度事業を大きく見直す予定にしております。魅力ある研修会を提案しておりますので、是非ご参加下さい。また、ご意見・ご要望がありましたら、今後の参考にいたしますので、ぜひ協会ホームページのお問い合わせフォーム、もしくは教育部長のE-Mailアドレスへご意見をお寄せ下さい。

皆様ご存知の通り、今年度から JPTA 生涯学習システ

ムが変更になりました。それに伴い、教育部では生涯学習部と協議をしながら卒後教育研修会等のシステムを検討しております。皆様には様々な面でご不便をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。

◎臨床実習教育班:通算7回目の研修会が2月3日(日)に迫りました。例年通り、星城大学の大川裕行教授をお招きし、臨床実習教育の基礎研修会と「熊本県版スーパーバイザーの手引き」の読み合わせ会及び意見交換会を開催する予定です。募集期間が終了しましたが、大変多くの皆様にお申いただきました。当日もきっと良い学びになると思います。来年度の臨床実習教育班は、少し事業をスリム化し、いよいよ臨床教育者の育成プログラムに向けた準備を始めます。こちらも大切な事業となると思いますので、ご意見やご要望などいただけますと幸いです。

さて!「熊本県版スーパーバイザーの手引き」はもうお読みいただきましたか?各施設1部の配布ですが、PDFにて熊本県理学療法士協会ホームページ(<http://www.kumamoto-pt.org/>)よりダウンロードできますのでぜひご一読いただき、臨床実習教育の参考にさせていただければと思っております。ご意見もどしどしお寄せ下さい。皆様の力でこの手引きを育てていきましょう。

◎管理・運営教育班:管理者教育カリキュラム(第1ステージ)が12月21日(金)を持って修了し、16名の修了者を輩出する事が出来ました。QCサークル九州支部の西田良生先生から「問題解決(QC手法)」について演習を中心に皆で考え、結果を出すというプロセスを学んでいただきました。ご協力頂きました全ての皆様、ならびに受講いただいた第3期生の皆様に心から感謝申し上げます。次年度以降は、JPTA委託事業として申請予定にしております。広く全国に知ってもらう事で、管理者育成の重要性を知っていただければと思っております。

もちろん第2ステージについても検討中です。皆様からも、ぜひ受講したいという項目等ございましたら、どうぞご意見下さい。

☆教育部のビジョンは...

- 現状における臨床実習教育の課題を抽出し、標準的指導指針を模索する。そのテキストとして、日本理学療法士協会発行の臨床実習の手引き(第5版)を用い、養成校、臨床実習施設の共通目標を確認する。
- 理学療法士としての専門的知識や技術の重要性もさることながら、卒前教育の限界と卒後教育での課題と思われる基礎的な項目の習得の一助となる教育システムの構築を行う。
- 上記内容を把握し、人材(財)育成、組織的管理のできる管理者を育成し、理学療法士の職域拡大や就労後の教育レベルの向上を図る。

教育部に対するご意見・ご要望等ございましたら、私(前田) rptmaeda@yahoo.co.jpまでご連絡下さい。

表彰審査委員会 委員長 山下 智弘

新年明けましておめでとうございます。

早いもので、『平成24年度 協会会員表彰』の候補者推薦の時期になりました。協会表彰規定により、『りんどう賞』: 本会の活動において、著しく貢献したと認められる者(協会としては比較的若い会員を該当者としており、新人賞的な位置づけをしております)に該当する会員の方を、ご推薦下さるようお願い致します。昨年は、1名の先生方が受賞されております。後日、各部部長・各委員会委員長および各ブロック長の方々には、「りんどう賞候補者推薦依頼文」ならびに「推薦書」をお送り致します。1人でも多くの方の推薦をよろしくお願い致します。

表彰は、5月に開催予定の『平成25年度第1回 熊本県理学療法士協会総会』におきまして、行われますので、本年4月末日までに、ご推薦下さるようお願い致します。

また、平成24年度新入会会員の方々を対象に『平成24年度入会会員の表彰に関するデータ入力』の案内を、11月26日発刊「かくどけい106号」に掲載しております。本年度中の入力を是非お願い致します。

<候補者推薦ならびに入力に関する問い合わせ先>

〒869-0532 宇城市松橋町久具 691

宇城総合病院 リハビリテーション部

Tel : 0964-32-3111(内線 : 695)

E-mail : ukisogo-rehashien@reimeiki.jp

担当 : 山下 智弘

生涯学習部 部長 南野 大佑

・新人教育プログラム修了処理について

新人教育プログラムの履修状況は全国協会のホームページのマイページ上で一元管理されています。

15単位の新人教育プログラム修了要件を満たすと、年度の途中であっても新人教育プログラムの修了申請をすることができます。会員個人によってマイページ上より新人教育プログラムの修了申請がされると、全国協会より修了証が発行され、会員個人宛に送付されます。その後は専門領域研究部会への登録が義務づけられていますので、新人教育プログラムが修了された方は専門領域研究部会への登録をお願い致します。

・新人教育プログラム未修了者について

2011年以前の新人教育プログラムでは、会員歴11年目以降で、新人教育プログラム未修了者は、「必須教育プログラム」の対象となっていました。この「必須教育プログラム」は平成24年3月31日をもって廃止されました。これに伴い、2002年度以降の入会者が取得した単位は失効せず、15単位の新テーマに自動的に移行しています。なお2001年度以前の入会者で、過去に新人教育プログラム未修了者で会員歴10年を超えたことにより失効した単位については、復活しませんのでご了承ください。

・研修会を受講する際は必ず会員カードをご持参下さい

今年度からシステムの一元管理により単位認定する際は会員番号等の情報が必要になります。

※今後、研修会を受ける際は必ず会員カードをご持参下さい。



・お問い合わせに関して

ご質問は随時受け付けておりますが、出来るだけメールにてお願い致します。

メールアドレスは… kpta.ild@gmail.com

緊急の場合は…

部長:南野大佑 (所属:熊本セントラル病院)

学術事業部

部長 岩田 輝彦

『第44回市民公開講座開催報告』

平成24年12月2日に株式会社くますまを会場として、第44回市民公開講座「使える福祉用具の理論と体験講座～ベッド周囲から移乗、車いす～」を開催しました。講師に株式会社くますまの代表取締役である理学療法士の河添竜志郎先生を迎え、看護師、介護職、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など34名の医療従事者が参加されました。

福祉用具を利用したトランスファーやその他の身体介護、車椅子・クッションの種類など、実技を中心に行なわれました。講義内容は基本的な身体介護のしくみやその応用などを話して頂いたため、職種を問わずためになるものばかりでした。また、実技は1グループ6～7名から構成された5グループに分かれ、くますまのスタッフ、学術事業部員がつき、講義内容の実践や福祉用具の紹介などを行いました。

福祉用具をうまく活用することで、介助者の介護負担

の軽減にもつながり、動作も円滑に遂行出来るため受講者にとって有意義な講義内容であったと思います。ぜひ、臨床の現場に活かして頂きたいと思います。



渉外部

部長 坂崎 浩一

・熊本県理学療法士協会・熊本県理学療法士連盟
共催 特別講演会開催

テーマ : 「理学療法の未来を創る」

講師 : (公社)日本理学療法士協会

半田一登 会長

日時会場 :

①平成25年1月22日(火)19:00～20:30

熊本総合医療リハビリテーション学院 定員200名

②平成25年1月23日(水)19:00～20:30

宇城総合病院 定員100名

・第2回熊本城マラソンボランティア支援

平成25年2月17日開催の第2回熊本城マラソンボランティア支援を行う事とした。平田町の中断所(35km地点)にテントを設営、マッサージやストレッチ等を行いゴールを目指すランナー達の「もう一頑張り！」を支援。

規約審議委員会 委員長 溝田 康司

今回の活動内容について報告させていただきます。

<平成24年11月28日>

事務局より平成25年度事業計画(案)・予算(案)の確認メール受領

<平成24年11月29日>

平成25年度事業計画(案)・予算(案)の一部修正分確認と了承をメール返信

<平成24年12月5日>

第3回部長会議出席。「かくどけい」等の規程見直しに関する答申終了の報告。

<平成24年1月9日>

拡大理事会出席。現状報告。 以上

法人事業審議委員会 委員長 大籠安男

明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

新年を迎え、心新たに仕事にプライベートに取り組まれていることと思います。

さて、今年度も残り3ヶ月となり、法人事業審議委員会も残り2回の会議開催を予定しております。日本理学療法士協会の理事会資料を中心に出来る限りの情報を取り、会議で報告して行きたいと思っております。

我々が所属する日本理学療法士協会の動向として、地域包括ケアシステムへの取り組み、訪問リハステーション、生涯学習システムの見直し、戦略的広報、包括的管理システム…等々、重要案件が山積している状況下、“聞える組織化”を進めてあります。今年度より公益社団法人となり、さらに国民利益への責務を担うこととなります。

我が熊本県理学療法士協会も同様に、来年4月から公益法人となることとなっております。会長並びに担当

理事の先生方、各部長・委員長、各会員の努力の賜物だと思います。

当協会が努力して取得した“公益法人”、皆さんはどのように捉えていますか？

今年も宜しくお願いいたします。

事業部 部長 保田 佳史

新年明けましておめでとうございます。

昨年は事業部の活動へご協力いただきましてありがとうございました。今年は公益社団法人へと移行する年でもありますので、事業部でも事業内容の見直しを行い講演会スタイルのくまもと「PT あ！(ピタ)」っと健康講座から新たなスタイルへ変更しようと計画を立てております。今まで以上に我々の活動をアピールしていけるよう取り組んでまいりますのでご協力賜ります様お願い申し上げます。

宣伝部 部長 草野 隆夫

平成24年11月と12月は、活動や会議はありません。
ユニホームの貸し出し

平成24年11月24日(土)・25日(日)

平成24年度第3回学術研修会にて

調査資料部 部長 岸本 稔

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様にご健勝のことと思います。

さて、今年度も残すところわずかになりましたが平成24年度の調査部最後の事業として熊本県理学療法士学会のアンケート調査を実施いたします。当日、参加される皆様には、ご協力をお願い申し上げます。

平成25年度 募集要項
公益信託 玉井記念整形外科学研究助成基金

1. 趣旨と目的

国民の生命の維持と健康の増進にとって重要である医学の研究を助成するため、主として熊本県内の大学、研究機関又は病院における整形外科学及びリハビリテーション医学に関する基礎的、臨床的研究を助成するために公益信託を設定し、これにより研究者の育成と医学の振興に寄与することを目的とします。

2. 助成内容

研究助成

整形外科学及びリハビリテーション医学に関する基礎的、臨床的研究で有望かつ優秀と認められるもの。

交流助成

- ・国内交流 学会シンポジウム等の開催又はこれらへの参加、受け入れなど。
- ・国際交流 海外出張、外国人研究者来訪交流など。

その他の助成

論文の印刷、翻訳、出版などに係る費用の援助。

3. 助成対象

原則として次のものに所属している研究者又はそのグループ。(但し、優れた研究を行なっている者として運営委員会が認めたときは所属を問わない)

- ◇熊本県内の大学又はこれに付属する研究機関。
- ◇熊本県内の研究機関又は病院であって、国、地方公共団体、民法34条により設立された法人又は法律により直接設立された法人に付属するもの(個人病院を除く)。

4. 助成金額

上記「2. 助成内容」に対する助成金は、1件当たり、25万円～100万円とし、運営委員会で決定する。

5. 選考と決定

運営委員会の審査選考に基づき決定する。

6. 申込み方法

所定の助成申請書により申込む。

7. 申込み締切り

平成25年4月30日(火) (当日消印有効)

8. 選考及び通知

募集締切り後に開催する本基金運営委員会において選考決定の上、平成25年6月頃にその結果をお知らせします。

9. 助成金の交付

助成決定後すみやかに交付。

10. 報告の義務

「助成金使用報告書」の提出を求める。

【申請書の提出先・問い合わせ先】

〒105-8574

東京都港区芝 3-33-1

三井住友信託銀行 リテール受託業務部 公益信託第一チーム
玉井記念整形外科学研究助成基金 申請口

TEL : 03-5232-8908 (受付: 平日 9時～17時)

FAX : 03-5232-8919

学会・研修会のお知らせ

運動による認知症予防・改善

～認知症改善に対する新たな知見～

【講習会内容】

- アルツハイマー病の概要
- 認知機能の評価方法
- 運動と認知機能との関係
- 認知症予防のための運動とそのエビデンス

記

開催日: 平成25年2月3日(日)

10:00～15:30

会場: 九州中央リハビリテーション学院

講師: 国立長寿医療研究センター
老年学・社会科学研究センター
自立支援開発研究部

自立支援システム開発室

室長 島田裕之先生

定員: 150名

参加費: 7,500円

【参加申し込み・問い合わせ】

SENSTYLE

<http://www.senstyler.com/>

ハート先生の心電図セミナー
初級特別編

【講習会内容】

- ・12誘導心電図の意味
- ・血圧と脈拍、心拍の基本的関係
- ・心筋梗塞や狭心症を心電図で評価する基本
- ・心房細動と心不全
- ・橈骨拍動や心音聴診で不整脈を判断する方法
- ・危険性の高い不整脈を知る
- ・ペースメーカー心電図の基本的な見方
- ・心室肥大やカリウム値と心電図の関係も理解する

記

開催日: 平成25年2月26日(火)

10:00～16:00

会場: 熊本県立劇場 B1F 大会議室

講師: 心臓病看護教育研究会 会長
医学博士 市田 聡先生

参加費: 10,000円

【参加申し込み・問い合わせ】

主催: 医学同人社
連絡先

<https://www.igakudoujin.com/reservations>



県北ブロック

菅原 大志

秋は行楽のシーズン。県北でもいくつかの地区でイベントが行われました。菊池では菊人形で有名な菊まつり、玉名では重さ1tの大俵を転がす大俵祭り、山鹿では前号でもお知らせしましたさくら湯の開湯など、多くの人出で賑わいました。私の勤務している職場でも、利用者さんたちの野外活動として、菊池へ菊人形見物に行ってきました。私は残念ながら同行出来ませんでしたが、イベントの際などに、利用者さんの普段では見られない生きいきとした表情や動作に驚くことが多々あります。生きがいや楽しみを持つことは、ひとの動きをこれほど変えるものなのですね。改めて「何を目指して理学療法をするのか?」「どうやって意欲を引き出し高めるのか?」のヒントを見たように感じます。

さて、ブロック活動のご報告ですが、12月2日(日)、山鹿中央病院にて、卒後教育研修会を開催いたしました。午前は「ラポール形成」、午後は「全人的アプローチ」の同日開催しております。参加者はそれぞれ「ラポール形成」22名、「全人的アプローチ」16名でした。「ラポール形成」は山鹿中央病院の平野和也先生と菊池訪問看護ステーションさくらの澤村一豊先生、「全人的アプローチ」は有明成仁病院の大籠安男先生と酒見亮先生にご担当頂き、大変円滑に研修を進めて頂きました。どちらもグループワーク形式主体の研修会ですので、どのテーブルでも参加

者の間で活発な意見交換が行われ、有意義な研修になったことと思います。また、前回の研修でもご一緒になった先生方同士の交流も見られ、その意味でも大変意義深い研修となったのではないかと思います。

快く会場をお貸し頂いた山鹿中央病院様、並びに講師の先生方、及び運営に関して多くの先生方からのご助力を賜り、無事に本年度の卒後研修会全ての日程を終了することが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

平成24年度のブロック事業計画としましては、主だったものは今回の研修会で最期となります。今後は新年度に向けての準備を徐々に進めていきたいと思いません。

寒さも厳しくなってきました。皆様風邪などひかれませぬよう、どうぞご自愛下さい。

県南ブロック

藤井 崇浩

新年、あけましておめでとうございます。一年の計は元旦にありと申しますが、新年を迎えて新たな気持ちで仕事を始めていらっしゃる方も多いことと存じます。

目標を設定してそれに邁進していければいいのですが、なかなか成長している実感がなかったり、あるいは目標そのものが漠然としていて、どのように設定すればいいのかわからない場合があります。それに関して、朝日新聞に興味深い記事が載っていたので紹介いたします。

現在、ニューヨーク・ヤンキースに所属している黒田博樹投手。彼は広島東洋カープで103勝を挙げてメジャーリーグに移籍したのですが、大阪の強豪・上宮高校時代は控え投手で、周囲のレベルの高さに「来るところを間違った」と思ったそうです。大学に進学すると、小林幹英(後の広島東洋カープ)投手のダイナミックなフォームをめざすことで球威を増し、プロ入り後は同期の沢崎俊和投手をライ

バルと位置づけ練習に励みました。万年補欠の高校球児が、なぜ世界最高の舞台にのぼることができたのか？本人は、「最初から大リーグという夢を持っていたら（中略）あきらめていた。目標が遠すぎると努力できない。僕にとっては、身近なところに目標があった方がやりやすかった」と語っています。

（朝日新聞 GLOBE2012年12月16日より）

同じ職場の先輩や同期、あるいは身近な人を目標に追いかける。そうすることで、一つずつ階段を上っていくという成長の仕方もあるのです。自分の目標設定に悩んでいる方は、参考になさってください。

さて、県南ブロックでは昨年12月25日に勉強会を開催致しました。くまもと芦北療育医療センターにて、九州看護福祉大学の吉田勇一先生をお招きし、小児分野における「背臥位の姿勢制御」を中心に学びました。「セラピストはすぐに対象者を触ろうとするが、その前にじっと観察することも大事」とのお話に、すぐに触ってしまいがちになる私は反省させられました。1月、2月にも勉強会を開催致しますので、会員の皆様の多数のご参加をお願い致します。

八代ブロック

塚島 靖博

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします

年末年始はリハスタッフ交代で勤務するのですが29日31日1日に出勤しましたので正月気分があまり味わえませんでした。次男が成人式でしたので式に出てみましたが、長男の時のようなド派手な若者は意外と少なくおとなしげな成人式でした。

次男がリハの大学に通っているのですが迎えに行った時に車の中で筋の起始停止、骨指標等質問しテスト勉強しながら帰ったり、レポートもパーキンソン病のステージに応じた指導内容などでしたので、参考文献を一緒に探したりしました。

なんかとてもうれしかったですね～。

さて、八代ブロックの活動としては、県南ブロックと共同開催で、11月25日 卒後研修会全人間的アプローチと危険予知トレーニングを八代総合病院で開催しました。八代ブロックからは11名と10名の参加で、活発な意見が出ていました。また、1月23日には日本理学療法士協会半田一登会長が、八代・天草・県南ブロック対象に講演会が開催されます。昨年宇賀岳病院から新築移転した宇城総合病院で開催されます。若い理学療法士の先生方にたくさん来て頂きたいですね。

天草ブロック

水田 順司

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。さて天草ブロックからの活動報告です。11月30日に天草初のPT、OT、STでの合同勉強会を開催し、各協会より2名ずつ計6題の演題発表があり、平日の勤務後の勉強会ではありましたが55名の先生方に参加いただきました。演題発表後には演者毎にブースを設置し、そこでディスカッションを行い、他職種と有意義な意見交換が行う事ができました。今後はこの活動をさらにリハ関連職種へと広め、天草地域のリハビリテーション発展のために活動を続けていきたいと思っております。

ブロック活動としましては2月の特別講義と3月の定例勉強会で全日程が終了いたします。特別講義は成尾整形外科病院の城内若菜先生を講師としてお呼びして「骨盤帯の評価」について講義を行っていただきます。3月の定例勉強会は3年目の先生方に「ケーススタディ～関節可動域制限について～」と題し発表していただきます。3年目の先生方には今年度のテーマにて勉強した内容を含め発表をよろしくお願ひいたします。来年度も様々な企画をたて、天草ブロックを盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

第17回熊本県理学療法士学会のお知らせ

学会長挨拶

The president's address

学会長 鏑木 誠 (熊本保健科学大学)

第17回を数える本学会の開催まで、あと1カ月を切りました。皆様のご協力をいただきまして、40題を超える興味深さまざまな内容の演題が集まりました。ありがとうございました。気になる内容については、2月初旬頃にお手元に届く『抄録集』をご参照ください。

今回、学会担当の北地区では、開催に向けてできるだけ多くの会員の皆様に参加して頂けるように、さまざまな試みを行っています。臨床に生かせる興味深い情報が得られるように3つの領域(運動器・神経系・生活環境支援)の先駆的な内容を発表していただく『指定演題 公開セミナー』をはじめ、県内勉強会・研修会紹介、および、各企業からなる体験型の『展示ブース』など、多くの皆様にご協力をいただきながら実施することになっております。

また、職能の様々な問題に対しての問題意識の共有と解決方法を探るべくシンポジウムも充実しています。県内の関連の深い団体から我々へ期待することを提言していただく『一般公開シンポジウム』をはじめ、事前に全会員を対象に行ったアンケートを基に我々が向かうべき未来像を探る『協会会員シンポジウム』を開催する予定です。

各病院や施設で日頃行っている臨床の内容はわかりづらいものですが、これを機に『久しぶりに会う同志の皆様と我々の専門性や患者様・利用者様に対する熱い思い、そして、未来像について語りあう...』そんな学会にしたいと思っております。一般の方も大歓迎ですので皆様お誘いあわせの上、ご来場下さいますよう、心からお待ち致しております！



メインポスター：野尻 晋一 (介護老人保健施設 清雅苑)

01 一般公開シンポジウム

An open symposium

テーマ：「社会が理学療法士に期待すること」

県内関連団体から数名のシンポジストをお招きし、理学療法士に期待することについて提言して頂きます。これを受けて、社会の中で公益性を強く求められている我々理学療法士はどのような行動を起こしたら良いのでしょうか？その手がかりを探っていきます。



学会サブポスター：一般公開シンポジウム

シンポジスト：

熊本県看護協会
道端 由美子氏(済生会熊本病院)

熊本障害者スポーツ指導者協議会
山本 行文氏(熊本機能病院顧問)

熊本県地域リハビリテーション支援連絡協議会
古閑 博明氏(熊本リハビリテーション病院 院長)

コメンテーター： 座長：
熊本県理学療法士協会 熊本県理学療法士協会
会長 北里 堅二氏 理事 坂崎 浩一氏

02 協会会員シンポジウム

Symposium for members

テーマ：「理学療法士が進むべき未来像」

事前に会員の皆様へ実施した学会アンケートの情報を基に「臨床」「研究」「教育」「職能」の4つに着目しどのような方向に向かうべきなのかを皆さんで考えたいと思います。

コメンテーター： 座長：
熊本県理学療法士協会 鏑木 誠氏
会長 北里堅二氏 (熊本保健科学大学)

03 分野別小委員会セミナー 活動報告

Activity report

本協会で専門的な分野で活動している組織の活動内容をご紹介します。会員や一般の皆様にも、本協会の取り組みや理学療法について知っていただくと幸いです。

報告：呼吸領域、糖尿病、小児領域、スポーツ領域の各委員会から報告していただきます。

座長：河野 将光氏(合志第一病院)

04 指定演題公開セミナー

Public seminar

テーマ：「学問としての理学療法の未来像」

生活環境支援系・運動器系・神経系の3つの領域について県内でご活躍されている理学療法士の方々に演題発表をしていただきます。専門的な臨床・研究の内容を新人の方でもわかりやすく、そして、中堅の方も興味深く聞いていただける内容を発表していただく予定です。ぜひ、ご期待ください！



学会サブポスター：指定演題公開セミナー

05 展示

An exhibition area

県内外からさまざまな企業・勉強会・研修会などに出席していただきます。実際に見て、触って、体験してみてください。

休憩場所にもなっておりますので、お茶を飲みながらの語らいの場にもご利用ください。

<展示内容>
福祉用具・機器、義肢・装具、活動内容紹介 他

学会ホームページ：
<http://www.kumamoto-pt.org/gakkai/rigaku17/index.html>

事務局だより

〒861-8045 熊本市東区小山 2 丁目 25-35
熊本総合医療リハビリテーション学院内
TEL/FAX 096-389-6463
Eメールアドレス kpta_kat@mtg.biglobe.ne.jp
ホームページ http://www.kumamoto-pt.org/

会長行動録

- 11/7 熊本市介護認定審査会
：熊本市健康センター新町分室
- 11/7 第3回拡大理事会
：熊本総合医療リハビリテーション学院
- 11/7 第9回理事会：熊本総合医療リハビリテーション学院
- 11/16 九州理学療法士・作業療法士合同学会長会議：長崎市
- 11/16 九州ブロック士会長会議：長崎市
- 11/21 熊本市介護認定審査会
：熊本市健康センター新町分室
- 11/27 九州理学療法士・作業療法士合同学会実行委員会：九州中央リハビリテーション学院
- 11/28 組織検討特別委員会
：熊本総合医療リハビリテーション学院
- 12/5 第3回部長会議
：熊本総合医療リハビリテーション学院
- 12/8 熊本地域リハビリテーション支援協議会総会・特別講演：熊本県医師会館
- 12/12 第10回理事会
：熊本総合医療リハビリテーション学院
- 12/17 熊本訪問リハビリテーション研修協議会会議：清雅苑
- 12/19 熊本市介護認定審査会
：熊本市健康センター新町分室
- 12/21 管理者研修プログラム修了式挨拶
：熊本保健科学大学
- 12/25 九州理学療法士・作業療法士合同学会実行委員会：九州中央リハビリテーション学院

会員数 (H24. 12. 21 現在)

賛助会員 10 社 休会会員 160 名

ブロック名	施設数 (()内の自宅会員数を 含んでいます。)	会員数
熊本市	271 (66)	1293
県北	68 (12)	210
八代	73 (10)	247
天草	42 (4)	89
県南	17 (1)	40
合計	471 (93)	1879

掲示板

- 異動・休会・復会・退会等の手続きについて
次のいずれかにより手続きください。

① Web 申請

日本理学療法士協会ホームページよりご登録ください。

② 書類による申請

届出用紙を熊本県理学療法士協会事務局へ郵送ください。

また、県外異動・入会・休会・復会・退会に関し熊本県理学療法士協会書式による書類の提出が必要です。各種届出書式に関しては、熊本県理学療法士協会会員名簿をご参照下さい。尚、書式は当協会ホームページよりダウンロード可能です。ご活用下さい。

ご不明な点は事務局までご連絡下さい。

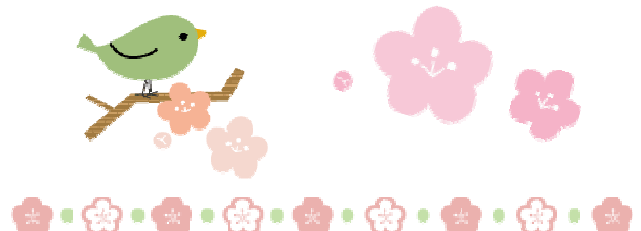
※休会は1年ごとの更新になっております。現在休会中の方は今年度末で休会期間が終了いたします。休会継続、復会、退会のいずれかのお手続きを2月末までお願いいたします。

- 会費納入について

今年度の会費が未納の方は速やかな会費納入にご協力お願い申し上げます。また、昨年度の会費が未納の方も早急に納入くださいますようお願い申し上げます。なお、未納の方へは日本理学療法士協会よりコンビニ・郵便局用の払込票が送付されております。払込票記載の期日までに納入下さい。

- 会費納入用楽天カードのお申込のお願い

会費納入用クレジットカードとして「楽天カード」（年会費無料）へのお申込をお願いします。楽天カードへのお申込は日本理学療法士協会ホームページの会員専用ページからお手続き下さい。



大 観 望

『秋の古都』

保険部長
熊本第一病院
河島 英夫

新年あけましておめでとうございます。

今年度より、保険部長を努めさせて頂いています熊本第一病院の河島英夫と申します。何卒よろしく願いいたします。

昨年の秋(11月)、とある研究会に参加するために京都へ行きました。ご存知のとおり、この時期の京都は紅葉がとても美しく、多くの方が観光に訪れます。私事ですが、約20年前に京都で働いていましたが、その時は紅葉に全く興味もなく過ごしていました。歳をとった今だから興味が湧いてきたのでしょうか、熊本から気軽に京都へ、というわけにはいきません。なんともったいないことをしたと、本当に悔やんでいましたが、幸いにして一日ほど自由な時間ができましたので、紅葉の京都を少しご紹介したいと思います。

到着日は、曇り空に時々小雨の天気でしたが、八坂神社から円山公園、知恩院へ行き、そのあと東福寺へと向かいました。東福寺は紅葉の名所として知られ、洗玉澗(せんぎょくかん)という溪谷一面が、鮮やかな色彩の三葉楓の木々で覆われています。臥雲橋からの景色、またその先の通天橋からの景色は圧巻です。元々は桜の木が植えてあったらしいのですが、すべて伐採され、楓の木が植えられたとのこと。

最終日は、秋らしく澄みきった快晴であり、早朝より本能寺に参拝。その足で詩仙堂(丈山寺)へと向かいます。美しい庭園を楽しんだ後、少し洛北の道を歩み水琴窟のある円光寺と曼殊院門跡へ。曼殊院門跡では、美しい紅葉の庭園と美味しい抹茶を頂きながら、ゆったりとした時間を過ごすことができました。そして最後に金福寺へ。金福寺には、芭蕉を敬慕する与謝蕪村とその一門によって再興された、松尾芭蕉が滞在したとされる芭蕉庵(茶室)があります。訪れた寺院の紅葉はどれも素晴らしく、古都の秋景色の美を認識することとあわせて、日頃の喧噪の生活から離れて、少し余裕を持つ気持ちを得たように思います。

平成24年は、良い事もそうでない事も含め、多くの貴重な経験をしました。後に振り返った時に、転機の年となるかもしれません。平成25年がどのような年になるのかわかりませんが、今の役割を滞りなく遂行できるように努めていきたいと思っております。皆様にとりましても、平成25年が良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

『上手な文章が書きたいなあ〜』

庶務部長
熊本総合医療リハビリテーション学院
福島 芳子

冬休みに入った子供が、宿題をしていた。作文の宿題だ。下書きを済ませたところで、「見てほしい」と添削を願い出た。私ではなく主人に……。主人は、確かに文章を書くのが上手い。語彙力・表現力が豊かで、読み手によく伝わる。その割にはシンプルで読みやすい文章を書く。私は主人のように文章を書くのが得意というわけではない。悩んで悩んで書くので、時間がかかる。年賀はがきの一言コメントさえ、どう表現して良いか悩むことがある。

では、どの様な点に気を付ければ、読みやすい文章になるのだろうか。作文の苦手な私にとって、注意点は多い。その中で特に気を付けていることは、一文が長すぎないようにすること、主語に対して述語が合っていること、の二点である。

大学で、レポートの添削を受けていた頃は、「一文が長い」とよく指導を受けていた。確かに、「~であるが、また~」と続けて書く癖があり、時には三行ほどにわたる“長文”を書くこともあった。そのため、書き出しの主語に対して、述語がかみ合わず難解な文章になってしまうことがあった。

このような経験から上記の二点に特に注意して文章を書くようにしているが、他にはどのような注意点があるのだろうか。例えば、主語と述語の間に沢山の修飾語が入ると意味が分かりづらくなるので、主語と述語は近くに置く。修飾語は被修飾語の近くに置く。長い修飾語と短い修飾語がある場合は、長い修飾語を前に持ってくる。「~である」を連発しない。「~の」を三回以上続けない。少し、調べるとたくさん出てくる。以下のような悪い例も載っていた。「決して私は、そのような立派な人間ではありません」「野球は、おそらくもっともスポーツの中で多くの能力を要求されるスポーツだと思う」「私はたしかに命の大切さということを軽視しすぎていると思う」。どこがおかしいか分かりますか。

井上ひさしさんは、「人間は書くことを通じて考えを進めていく生き物である」と述べている。頭の中で漠然と考えていることを、文や図式にすると確かに整理できる。そこからまた次に進むことができる。私は小説家のような文章は書けないし、今まで書いてきた文章も未熟であることは承知である。ただ、未熟であっても、自分の考えを整理し読み手に理解しやすい文章になるよう心掛けていきたいと思っている。

学術事業部文献紹介

「Skeletal muscle damage and impaired regeneration due to LPL-mediated lipotoxicity」

著者：K P Tamilarasan, H Temmel,
S K Das, W Al Zoughbi, Schauer,
P W Vesely, G Hoefler

Cell Death and Disease ; 3(7): 354, 2012

近年、食習慣の欧米化に伴い日本人の脂質摂取量は大幅に増加しています。脂質の過剰摂取は肥満をもたらし、特に内臓脂肪型肥満は種々の生活習慣病の原因として重要視されています。しかし、最近新たに問題となってきているのが「異所性脂肪」です。これは、脂肪が過剰となることで皮下脂肪や内臓脂肪だけでは貯蔵しきれなくなり、肝臓や筋肉など本来脂肪が蓄積されることのない組織に脂肪が蓄積された状態です。異所性脂肪は脂肪肝や2型糖尿病、筋疾患などの原因となります。このような異所性脂肪組織による悪影響は「lipotoxicity（脂質毒性）」と言われていています。これには血中の中性脂肪（TAG）を分解し細胞内に遊離脂肪酸（FFA）を取り込む役割を担っているリポ蛋白リパーゼ（LPL）が関与していると言われていています。この論文では、筋組織に蓄積した脂肪が骨格筋に対してどのような影響を与えるかについて検討しています。

著者はまず筋肉クレアチンキナーゼプロモーターマウス（MCKm）モデルを使用してヒト LPL（hLPL）過剰発現時の骨格筋について検討しています。その結果、hLPL トランスジェニックマウスは比較群より骨格筋重量が減少、筋肉内の FFA・TAG レベルが増加しており、蛋白質分解も有意に増加していました。さらに、筋肉損傷後の再生能も有意に減少していました。4-6 ヶ月のトレッドミル運動を行わせた実験では、比較群より持久力が 1/6 となっていました。

次に C2C12 筋芽細胞モデルを使用して検討をしています。このモデルを使用した検討においても MCKm モデルを使用した検討と同様に、hLPL 過

剰発現マウスにおいて FFA と TAG が有意に増加していることが確認されました。また、筋原性転写因子である Myogenin と MyoD の発現が有意に減少していました。

以上の結果より、過剰な LPL 発現により筋肉内に FFA や TAG などが蓄積することが認められ、筋肉内に蓄積した脂質が筋蛋白質の分解促進、筋損傷後の筋再生能力の低下、Myogenin と MyoD の発現減少による筋形成能力の低下などを誘発することが明らかとなりました。そして、このような筋内脂肪組織の lipotoxicity により骨格筋機能が低下し、身体能力が低下することが示唆されました。

高齢者では年齢と共に骨格筋が減少し脂肪組織が蓄積する「サルコペニア肥満」が問題となっています。一見すると痩せているわけではなく、BMI も比較的良好なので見逃されることが多いと言われています。脂肪組織の蓄積は今回の報告のように身体機能を低下させるだけではなく、認知機能や免疫能の低下などに関与し、また炎症反応を誘発することで慢性炎症性疾患の原因ともなります。高齢者に対しては、身体計測値や検査値で特別な異常が見つからなくても、サルコペニア肥満ではないかと疑って運動面と栄養面での介入を行っていくことが大切だと考えます。（文責：宇野 勲）

『実践 MOOK・理学療法プラクティス

脳卒中の障害・病態とその理学療法アプローチ』

常任編集 嶋田智明 大峰三郎
発行所 文光堂

実践 MOOK・理学療法プラクティスシリーズの特徴としては、新人理学療法士が専門職としての土台を作る上で必要な知識、技術を学ぶことが出来るものです。価格も 4500 円と手に入りやすいものとなっています。そのシリーズの中で今回ご紹介するテーマは、脳卒中の障害・病態とその理学療法士アプローチについてです。本書はパート1、パート2の2部構成になっています。

パート1の内容としては脳卒中患者に対しての意識レベルのみかたからプログラム立案までの評価、歩行分析のポイントまで様々です。さらに生化学検査データを考慮した理学療法プログラムの立案方法や神経画像のみかたもあります。臨床の現場ですぐにでも役立てることが出来る内容となっています。

パート2は具体的な治療方法（運動麻痺・バランス機能・関節可動域の改善）、ADL動作へのアプローチ方法などが記載されています。両パートとも図や表を用いて分かりやすく解説されていますので、新人理学療法士の皆様にとっては入り込みやすい内容となっています。また、新人以外の理学療法士の方でも基礎を再学習する上で役に立つ一冊になるのではないかと思います。（文責:古閑有一郎）

『機能解剖で斬る神経系疾患』

編集者 中野 隆

発行所 メディカルプレス

本書は一見難解と思われる神経系疾患を、機能解剖の視点からわかりやすく解説してあります。一番の特徴としては、図表が非常に良くまとまっており、理解しやすく解説されているところです。また、一つの疾患ごとではなく、一つの部位や神経ごとに解説されているため、「どうしてそのような症状が出るのか」や「〇〇と××はどうして合併しやすいのか」などが理解しやすくなっています。

内容としては、

「随意運動伝導路の機能解剖」

「体知覚伝導路の機能解剖」

「小脳と非意識型深部覚伝導路の機能解剖」

「平衡覚伝導路と機能解剖」

「錐体外路系伝導路の機能解剖」

「大脳辺縁系の機能解剖」

「視床の機能解剖」「自律神経系の機能解剖」

「末梢神経系の機能解剖」

となっています。

中枢神経系疾患の患者さんを担当する機会が多い方はもちろんですが、整形疾患の患者様を担当する機会が多い方が読んでも、「実はあの症状の原因は

これに関係しているかも」といった新しい発見があるかもしれません。ぜひご一読を。（文責:宇野 勲）

『脳卒中リハビリテーションの要諦』

著者 三好正堂

発行所 悠飛社

脳卒中は理学療法士にとって遭遇頻度の高い疾患です。発症前後で日常生活が大きく変わることもあり、患者家族も発症前後の変化に対応できないことも多々あると思います。本書は、急性期リハビリテーション脳卒中の最前線にいる患者さんの家族や、一般臨床医の方々を念頭に置き解説してありました。内容はとても分かりやすく、簡潔にまとめられていたためリハビリ関連職種の方々が読まれてもとても参考になる内容でした。

内容は、早期リハビリテーションはなぜ必要かという内容から始まり、脳卒中という病気と障害、片麻痺患者さんが回復するメカニズム、麻痺手のリハビリテーション、日常生活動作の訓練、慢性期・片麻痺患者さんを回復させる方法、排尿障害・失禁の治療、失語症・発話障害のリハビリテーション、失認・失行・高次脳機能障害のリハビリテーション、介護保険の受け方など、急性期から慢性期のリハビリテーション、自宅退院に向けて全第14章で構成されていました。

どの時期になにをやるのか、そして何故それを行わなければならないのかという根拠や、各項目での症例紹介により実際に介入前後でどう変化したのかという結果が載っていました。そのため、根拠を学びながら結果をみて納得しながら読み進めることができました。この書籍はリハビリ関連職種の方のみならず患者さんの家族が読んでもとても分かりやすい内容ですので、若いスタッフなどは特に臨床現場においての手助けになればと思います。

（文責:杉本一洋）



学会・研修会印象記

『第3回学術研修会に参加して』

熊本機能病院 久木元 芳輝

去る平成24年11月24・25日の両日、九州中央リハビリテーション学院にて開催された、第3回学術研修会に参加する機会を得ました。今回は中部学院大学の理学療法士である林典雄先生に、「肩関節疾患における機能解剖学的臨床評価と運動療法の展開」と題して肩関節を中心に、実技を交えての講義を行って頂きました。

肩関節の評価として、超音波を利用した方法の紹介がありました。拘縮を起こしている筋の状態や、動作時の筋の滑走の様子など肉眼では確認できないことを超音波では分かりやすく確認できることに驚き、興味を持ちました。臨床では触察で、筋の硬度や疼痛部位の確認は出来ませんが、なかなか筋の動きまでは把握できません。セラピストは超音波を評価として利用することで、患者さんの身体内で何が起こっているのかを説明しやすく、かつ患者さんにとっては病態がビジュアルを交えて理解しやすいのではと思いました。患者さんは病態を、超音波を利用し理解することでセラピストと取り組むリハビリテーションに対するモチベーションが一層向上するのではないかと思います。今後の臨床評価の一手段として、職場でも利用できないかを考えていきたいと思えます。

運動療法の実技ではランドマークの方法から始まり、筋肉の走向、各筋に対して、どう考えアプローチを行うべきかを詳細に説明して頂きました。肩関節の骨・筋・神経を考慮し、それを3Dとして考えることの大事さを痛感致しました。今までは3Dでのイメージがしづらく、また曖昧な部分があり、なかなか個々の筋に対してはアプローチが行えていなかった気がします。自分のアプローチ方法を見直そうと思ったいい機会となりました。

今回の研修会に参加することで、新しい知見と自分自身における患者さんへのアプローチ方法や考え方を見直すことができ、非常に良い経験となりました。肩関節だけでなく、他の関節でも応用いくことができればと思います。また、今回の研修内容を復習したり、職場内で伝達講習を行うことで多くの先輩方から貴重なご意見やアドバイスを頂き、更に知識を深めることができました。このような貴重な機会を今後も大事にしていき、多くの患者さんに還元できるように頑張っていきたいと思えます。

『筋膜リリース DTMR を使用した

骨盤の評価と治療に参加して』
ひとよし内科 和田 博暁

平成25年1月13日、I.S.E(構造的自然治癒力研究所)主催の研修会にて、せんだメディカルクリニックの園田大輔先生の講義を受講してきました。内容は筋膜リリース DeepTissue-MyofascialRelease (以下、DTMR)を使用した骨盤の評価と治療についてです。筋膜系へのアプローチの講義はいくつか受講してきたのですがDTMRを使用しての講義は初めての体験でした。

簡単な紹介からさせて頂くと治療の分類としては①ディープティシュータイプ②クロスハンドタイプ③ソフトタッチタイプの3種類となります。今回はディープティシュー系の治療を中心に習いました。特徴としては「同程度の圧を筋膜に対して持続的にかけ続ける技術」となっています。さらに、ボディメカニクスを重視し、体全体をホリスティックな視点から捉えた上で、施術箇所を決めていく特徴があります。筋膜リリースの長所は関節運動を伴わずともリリースできる、運動時に痛みがある方にも使用できる等があり、短所はリリースに時間がかかる等があります。

座学後は2人ペアでの実技を行いました。ボディーリーディングにて静的姿勢評価を行い、次に歩行等による動的姿勢評価を確認します。ペアの方の骨盤は後傾でなお前方シフトしており左側屈と右側はインフレア、左側はアウトフレアの方でした。又、体幹前屈の際に骨盤の動きだしが早く、降下しやすいのは左側でした。よって臀筋群、腹部筋群、ハムストリングスを中心としたリリース(ツールはフィスト)を実施し、リリース前とリリース後の変化を比較した際に関節可動域の拡大、痛みの軽減がみられ、立位姿勢と歩行状態も良くなったという結果でした。

臨床にて脳血管疾患、整形疾患等の患者さんを治療する際に、筋系を中心にアプローチするか骨系を中心にするのか、またまた両方同時にするのか。評価の段階で私自身も悩まされる機会が度々あります。しかし、治療者がどういう評価を行い、どういう治療を進めていくのかは考え方の引出を多く持っていたほうが多種多様なケースに対応できると私は思います。

今回は筋膜DTMRの凄さと評価の重要性を再確認させられた講義となりました。治療手技は違えど、「患者さんの為に一生懸命に試行錯誤して治療に向かう」姿勢はセラピストみな同じだと思います。今後もその思いを忘れず、セラピストとして仕事に励んでいきたいと実感できた1日でした。

PT Walker くまもとの理学療法情報 熊本

★通所リハビリテーション

介護老人保健施設、病院や診療所で提供される、利用者の心身機能の維持回復、日常生活の自立を助けることを目的とする、リハビリテーションをいいます。利用者は介護老人保健施設などを訪れてこれらのサービスを受けます。

通所リハビリテーションを利用できるのは、居宅(ここでいう「居宅」には、自宅のほか軽費老人ホームや有料老人ホームなどの居室も含みます)で生活を送る、「要介護」と認定された人です。ただし、主治医が、利用者の病状が安定しており、サービスの利用が必要だと認めた場合に限りです。

★介護予防通所リハビリテーション

介護予防を目的として、一定期間、介護老人保健施設、病院、診療所などで行われる理学療法、作業療法、そのほかの必要なリハビリテーションをいいます。

介護予防訪問リハビリテーションを利用できるのは、居宅(ここでいう「居宅」には、自宅のほか軽費老人ホームや有料老人ホームなどの居室も含みます)で生活を送る、「要支援」と認定された人です。ただし、主治医が治療を必要とする程度について厚生労働省令で定める基準に合致していると認めた場合に限りです。

県内で理学療法士が通所リハビリテーションに所属している施設を地区ごとに紹介します

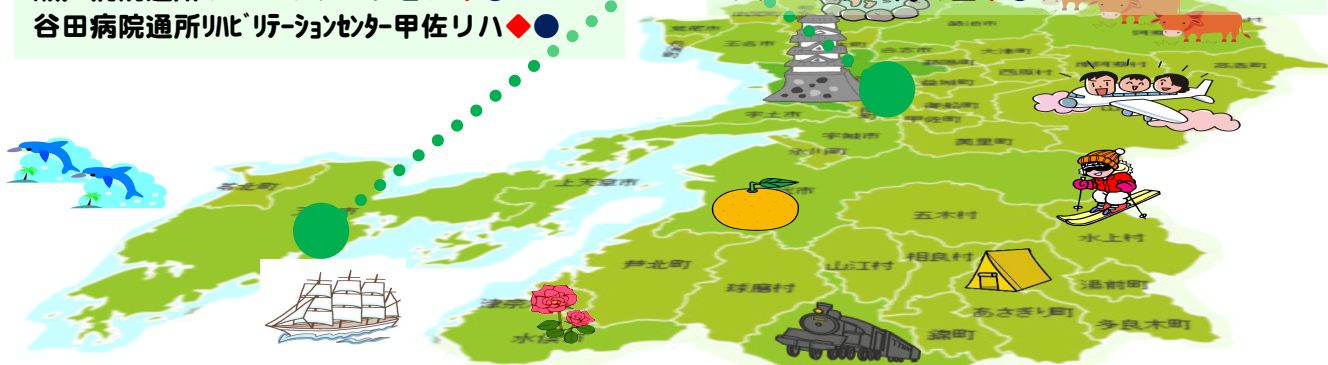
◆：通所リハビリテーション ●：介護予防通所リハビリテーション

★熊本市ブロック 南地区

- 介護老人保健施設ぼたん園
通所リハビリテーション◆●
- 介護老人保健施設田迎ケアセンター◆●
- 彩雲苑通所リハビリテーション◆●
- 老人保健施設ライフライン矢部◆●
- 介護老人保健施設ナーシングケア緑風苑◆●
- 近見医院通所リハビリテーション◆●
- 有明海通所リハビリテーションセンター◆●
- 南部中央病院デイケアセンターなんぶえん◆●
- デイケア桜十字◆●
- にしくまもと病院
指定通所リハビリテーション事業所れんげ草◆●
- けあらんど川尻◆●
- デイケアセンターたいのしま◆●
- 西村病院デイケアセンター◆●
- 瀬戸病院通所リハビリテーション◆●
- 谷田病院通所リハビリテーションセンター甲佐リハ◆●

★天草ブロック

- 通所リハビリテーションはるかぜ◆●
- デイケアセンターゆーとぴあ◆●
- 介護老人保健施設慈恵園◆●
- デイケアセンター蕩蕩館◆●
- 通所リハビリテーションセンターげんき◆●
- 天草厚生病院デイケアセンター◆●
- 国民健康保険天草市立新和病院◆●
- 天草社会保険介護老人保健施設◆●
- 介護老人保健施設ケアセンター鶴丸◆●
- 通所リハビリテーション夢織りの郷天草◆●
- 介護老人保健施設ケナガデン通所リハ◆●
- 介護老人保健施設ブルーマリン天草◆●
- 宮崎外科胃腸科医院◆●
- 佐々木整形外科◆●
- ほんごう苑デイケアサービスセンター◆●
- ケアセンター海ん里◆●



* 熊本県介護サービス情報公表センターのHP(平成24年2月現在)および平成23年10月1日現在の会員名簿を元に作成しています。記載漏れ等ありました場合は御連絡下さい。

医療・介護ナビ

お役立ち便利グッズ紹介

「LOWRAN「ゴムハンドル」

握力が低下したり手首に痛みがあったりすると、玄関やトイレ等の丸いドアノブを回すのがとても大変です。

「LOWRAN「ゴムハンドル」は、滑りやすい丸型ハンドルをレバー型に変身させるドアハンドルです。

「ゴムハンドルの内側の輪の部分には、ノブを回す際のすれ防止のために出っ張りが付いています。まず「ゴムハンドル」に付いているビスを緩め、輪を元のドアノブの上に被せます。この時、元のノブが先太りの場合は、「ゴムハンドルの出っ張りを先に、先細りの場合は逆に奥に取り付けます。しっかりとハマったら、ビスを締めて出来上がり。

レバーハンドルになるのでドアの開閉も指を添えるだけでラクラク。直径45〜50ミリの丸型ノブで使えます。



丸型がレバーに変身

「シートベルト取って」

後部座席にもシートベルトの着用が義務つけられていますが、シートベルトは意外に引っ張り出しにくいものです。特に体をひねったり腕を上げたりすると痛みがある場合にはとてもひと苦労です。

「シートベルト取って」は、座席で体をひねらなくてもシートベルトがラク取れる取ってです。

シートベルトの金属部分の上側に巻きつけて、スナップ留めするだけ。引っ張りやすいように、下に垂れ下がらない設計と特殊処理済みで、取っ手を引っ張れば、「シートベルトの金属が簡単に引き寄せられます。指をかけるだけで取れる指かけも付いています。ソフト素材なので、つけっぱなしでも大丈夫。汚れたら洗濯もできます。



簡単に引き寄せられる

「入浴応援手おけ」

お風呂に入るとき、手おけや湯おけを使って湯船からお湯を汲みます。普段何気なくやっている動作ですが、握力低下や手首の痛み、指の変形などがあつたりすると、途端に片手で湯を汲むのがつらくなります。

「入浴応援手おけ」は、握力が弱くても片手で楽に扱える手おけ。持ち手が特殊な形状をしているので、状況に応じて5通りの持ち方が可能です。特に写真のように持ち手を手の甲に引っ掛けて握ることで、握る力が弱くても楽に持ち上げることが出来ます。

従来の品(1・5L)よりも容量を抑えた小ぶりサイズ(1・15L)。重量も約200gと軽くなっています。滑らないように、取っ手には滑り止めがはめ込まれているので安心です。



片手でも楽に扱える



よろず運動療法相談所

スポーツ小委員会

～フルマラソンを走る～

さていよいよ熊本城マラソンですね。大会に出られる方はこれまで辛いトレーニング、練習を重ねてこられたと思います。ここでは、フルマラソンを存分に楽しむために注意しておきたいことを述べます。良かったら参考にしてください。

① 疲れを残さない

フルマラソン本番当日までに疲れを溜めない、残さないことは非常に重要です。本番前から疲れていたのでは完走も遠のいてしまいます。本番1週間前から前日はトレーニングも軽めに留めておいて、早めに就寝し朝型の体作りをお勧めします。前日は遠足前のように興奮したり、緊張したりで寝付けない方もあるかと思いますが、寝ようとするのが大切です。身体を横にしてゆっくり休むだけでも随分疲れ加減が変わってくると思いますので、無駄な夜更かしは避けるようにしたいものです。

② 絆創膏を用意しておく

普段の練習ではさほどありませんが、距離が延びてくると皮がめくれたり、まめができ潰れたりとアクシデントが起きやすくなります。しかしそのまま走り続けることは更なる被害をもたらす可能性が高く、非常に危険です。もちろん大会側で救護班も待機していますが、近くにあるとは限りません。このため大会では応急処置用に2～3枚用意しておくとういと思われれます。

③ トイレは忘れずに

参加者の多い大会の場合、どれだけ気をつけて本番前にトイレに行ってもスタート地点への集合時間から、スタートまでの時間が長く、途中でまた行きたくなってしまふことがあります。そんな時は我慢せずにトイレを見つけてでも行くようにしましょう。実際我慢しても身体に良くないですし、中には大会後に膀胱炎になる方もいらっしゃるかと…。気を付けてくださいね！

④ ペースをしっかりと守る

完走が目的でタイムは特に気にしていないという方や初めてのフルマラソン、初心者ランナーの場合は仲間とお話出来るくらいの余裕のペースで走ることをお勧めします。最初は周りのペースに気を取られ、また気持ちも高揚していますからついついペースが速くなりがちです。すると30km地点から足が動かず、最後は引きずるようにゴールというパターンになってしまいます。お話出来るくらいのペースで走ればオーバーペースになりにくく、最終的にバテにくいペースにもなります。中級・上級の方であれば、自己で設定したタイムを見ながら走れると良いかと思ひます。

⑤ きつい時は立ち止まる

きつくて一度立ち止まったら再度走り出すのは難しいから、せめて歩くでもして立ち止まらない方がよいという方もいらっしゃると思いますが、気力さえあれば再び走り出すことは可能です。それより無理して足がつってしまったら再び走り出すのは困難です。足がつりそうという感覚はなんとなく分かると思うので、その時は一度立ち止まりストレッチなどして足の回復を待ってから、ゆっくり走り出せば少しでも前に進んでいけると思ひます。

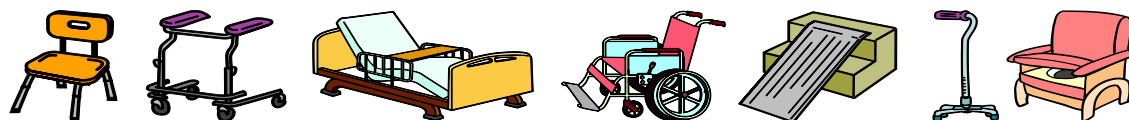
フルマラソン本番に向けて体調を整えてきたつもりでも、本番当日に体調を崩してしまったり、走っている途中で怪我してしまったり、足がつってしまうことは十分考えられます。そのような時は無理せずにリタイアを考へることも必要です。大会は今回が最後ではないので、次回にむけてまた頑張るよう頭を切り替えることも大事です。決して無理をして、今後一切走れないということがないようにしたいものです。

さあ準備は整いましたか！？フルマラソンを完走して、その感動を是非十分に味わってください☆☆☆
(文責：荒木理恵)



賛助会員一覧

施設名	〒	住所	TEL
有園義肢株式会社	866-0815	八代市長田町 3300	0965-33-3983
アメックス熊本株式会社	862-0913	熊本市東区尾ノ上 1-3-9	096-384-6565
(有) 熊本託麻義肢	861-8034	熊本市東区八反田 2-1-49	096-380-8673
(株) 藺田義肢製作所	860-0811	熊本市中央区本荘 4-5-5	096-364-9376
(株) タガワブレース	869-0605	宇城市小川町南部田 1555-1	0964-43-0503
(株) 徳田義肢製作所	862-0971	熊本市中央区大江 6-27-20	096-364-0855
(株) ホワシ	861-8045	熊本市東区小山 5-19-55	096-389-5411
(株) ミタカ	861-3107	上益城郡嘉島町上仲間 850-2	096-237-2257
帝人在宅医療株式会社 熊本営業所	862-0913	熊本市東区尾ノ上 2-23-1	096-360-7333
(有) 三栄商会 サンエイ・メディカル	861-0516	山鹿市中央通 406	0968-43-7755



編集後記

ひときわ 厳しい寒の入りを迎え、身も凍る日々が続いています。最近、同じ職場の若い職員達がウインタースポーツに精を出している様子が伺えます。誘われることもあるのですが、運動からやや遠ざかっているのもあり足が向かない状態が続いています。

寒さに負けないような体作りを今年は目標にしていければと考えるこの頃です。(M・T)

社団法人熊本県理学療法士協会広報誌「かくどけい」

号 数 第 107 号 通算 144 号
 発行日 平成 25 年 1 月 28 日
 発行人 社団法人熊本県理学療法士協会

〒861-8045 熊本市東区小山 2 丁目 25-35
 TEL/FAX 096-389-6463

STAFF

坂田 大介	岩村 泰年
江口 宏	中野 真実
緒方 美湖	山田祐理子
奥 菫 彩	富 永 誠
野田 智愛	北岡 千春
渡邊 知子	松本 美香
有馬 正英	古川 晃次
財満 麻美	渡邊 大輔
福田 圭祐	南 留美子
岩見 幸省	野尻 晋一 (表紙)



事業予定表

2月		3月		4月	
日	曜	予定	日	曜	予定
1	金	賛助会員懇談会	1	金	
2	土		2	土	熊本県医療・保健・福祉連携学会
3	日	第7回臨床実習教育研修会 第12回テーピング講習会	3	日	
4	月		4	月	
5	火	医専連理事会	5	火	
6	水	第12回理事会	6	水	
7	木		7	木	
8	金	教育部卒後教育班会議	8	金	
9	土		9	土	
10	日		10	日	第13回理事会・第2回総会 ※
11	月		11	月	かくどけい編集会議
12	火	学部部会議	12	火	
13	水		13	水	
14	木		14	木	
15	金		15	金	
16	土		16	土	
17	日	熊本城マラソン	17	日	
18	月		18	月	かくどけい発送作業
19	火		19	火	
20	水		20	水	
21	木		21	木	
22	金		22	金	
23	土	医専連創立30周年記念講演会並びに記念式典	23	土	
24	日	熊本県理学療法士学会 大分県理学療法士協会記念式典・祝賀会	24	日	
25	月		25	月	
26	火		26	火	
27	水		27	水	
28	木		28	木	
			29	金	
			30	土	九州ブロック会会長会議
			31	日	
		<ul style="list-style-type: none"> ●第2回介護予防勉強会(熊本市ブロック北地区) ●八代ブロック勉強会 ●第5回県南ブロック勉強会 ●特別講義(天草ブロック)(2/2または2/16) 			<ul style="list-style-type: none"> ●平成24年度事業監査 ●県北ブロック会議 ●八代ブロック会議 ●天草ブロック会議 ●天草ブロック新入会員歓迎会(天草リハ研合同) ●県南ブロック会議

県コード

1	北海道
2	青森
3	秋田
4	岩手
5	宮城
6	山形
7	福島
8	茨城
9	栃木
10	群馬
11	埼玉
12	千葉
13	東京
14	神奈川
15	新潟
16	富山
17	石川
18	福井
19	山梨
20	長野
21	静岡
22	岐阜
23	愛知
24	三重
25	京都
26	滋賀
27	奈良
28	和歌山
29	大阪
30	兵庫
31	岡山
32	広島
33	鳥取
34	島根
35	山口
36	徳島
37	高知
38	香川
39	愛媛
40	福岡
41	長崎
42	熊本
43	大分
44	佐賀
45	宮崎
46	鹿児島
47	沖縄
48	海外

最終学歴

1	中学（旧制小学・高等小学校含む）
2	高等学校
3	専門学校
4	短期大学（旧制高等学校含む）
5	大学（学位授与機構含む）
6	大学院修士課程修了（博士課程前期）
7	大学院博士課程修了（博士後期課程）
8	高等専修学校
9	その他

学位称号

1	なし（学位または称号は有していない）
2	学士
3	修士
4	博士
5	準学士
6	専門士
7	高度専門士
8	その他

施設区分 I

A	B
1	大学病院
2	総合病院
3	一般病院
4	老人病院
5	小児施設
6	老人施設
7	教育施設
8	行政機関
9	保健所
10	その他
11	不明
	1 厚労省（含：国立病院機構）
	2 文科省（含：国立大学法人）
	3 労働者健康福祉機構
	4 旧三公社（たばこ産業・JR・NTT）
	5 都道府県
	6 市町村
	7 日赤
	8 済生会
	9 北海道社会事業協会
	10 厚生連
	11 国民健康保険団体連合会
	12 厚生年金事業振興会
	13 厚生団
	14 船員保険会
	15 健康保健組合及びその連合会
	16 共済組合及びその連合会
	17 国民健康保険組合
	18 公益法人
	19 医療法人
	20 私立学校法人
	21 会社
	22 その他の法人
	23 老人福祉施設
	24 身体障害者更生援護施設
	25 児童福祉施設
	26 知的障害者援護施設
	27 その他の社会福祉施設
	28 個人
	29 その他
	30 不明

異動届記載用資料

施設区分Ⅱ

A		B	
1	医療施設	病院	1 大学病院
			2 総合病院
			3 老人病院
			4 小児病院
			5 一般病院(上記以外) 一般病床
			6 一般病院(上記以外) 療養型病床
			7 感染症病院
			8 精神病院
			9 結核病院
			10 ハンセン病院
			11 地域支援病院
			12 その他
2	医療施設	診療所	1 有床診療所
			2 無床診療所
			3 療養型病床群
			4 その他
3	医療施設	不明	1 その他
4	医療福祉中間施設	医療福祉中間施設	1 介護老人保健施設
			2 老人訪問看護ステーション
			3 老人デイサービス
			4 老人デイケア
			5 その他
5	老人福祉施設	老人福祉施設	1 養護老人ホーム
			2 特別養護老人ホーム
			3 軽費老人ホーム
			4 老人デイサービス
			5 老人福祉センター
			6 老人短期入所施設
			7 有料老人ホーム
			8 介護付き有料老人ホーム
			9 在宅介護支援センター
			10 高齢者総合相談センター
			11 その他
6	介護保険法関連施設	介護保険法関連施設	1 地域包括支援センター
7	身体障害者福祉施設	身体障害者更生養護施設	1 肢体不自由者更生施設
			2 重度身体障害者更生養護施設
			3 重度障害者授産施設
8	身体障害者福祉施設	身体障害者療護施設	1 身体障害者療護施設
9	身体障害者福祉施設	重度身体障害者授産施設	1 重度身体障害者授産施設
10	身体障害者福祉施設	身体障害者福祉センター	1 身体障害者福祉センター A型
			2 身体障害者福祉センター B型
			3 在宅障害者デイ・サービス施設
11	身体障害者福祉施設	身体障害者更生相談所	1 身体障害者更生相談所
12	児童福祉施設	知的障害児施設	1 知的障害児施設
13	児童福祉施設	知的障害児通園施設	1 知的障害児通園施設
14	児童福祉施設	肢体不自由児施設	1 肢体不自由児施設
			2 肢体不自由児通園施設
			3 肢体不自由児療護施設
15	児童福祉施設	重症心身障害児施設	1 重症心身障害児施設
16	児童福祉施設	情緒障害児短期治療施設	1 情緒障害児短期治療施設
17	児童福祉施設	児童相談所	1 児童相談所
18	児童福祉施設	心身障害児総合通園センター	1 心身障害児総合通園センター

A		B	
19	精神障害者社会復帰施設	精神障害者生活訓練施設	1 精神障害者生活訓練施設
			2 精神障害者授産施設
			3 精神障害者地域生活支援センター
20	精神障害者社会復帰施設	精神保健福祉センター	1 精神保健福祉センター
			1 精神障害者社会復帰促進センター
21	精神障害者社会復帰施設	精神障害者社会復帰促進センター	1 精神障害者社会復帰促進センター
22	精神障害者社会復帰施設	精神障害者グループホーム	1 精神障害者グループホーム
23	精神障害者社会復帰施設	精神障害者小規模作業所	1 精神障害者小規模作業所
			1 知的障害者更生施設
24	知的障害者福祉施設	知的障害者支援施設	1 知的障害者更生施設
			2 知的障害者授産施設
25	知的障害者福祉施設	知的障害者更生相談所	1 知的障害者更生相談所
26	障害者自立支援施設	指定障害者福祉サービス事業所	1 生活介護事業所
			2 自立訓練(機能訓練)事業所
			3 多機能型事業所
27	障害者自立支援施設	指定障害者支援事業所	1 生活介護支援事業所
			2 自立訓練(機能訓練)支援事業所
28	障害者自立支援施設	指定相談支援事業所	1 指定相談支援事業所
29	障害者自立支援施設	指定地域活動支援センター	1 指定地域活動支援センター
30	教育・研究施設	特別支援学校	1 肢体不自由児
			2 知的障害児
			3 その他
31	教育・研究施設	教育・研究施設	1 理学療法3年制専門学校教員
			2 理学療法4年制専門学校教員
			3 理学療法短期大学教員
			4 理学療法大学教員
			5 理学療法以外の大学教員
			6 研究施設
			7 その他
32	行政関係施設	行政	1 保健所
			2 市町村保健センター
			3 国
			4 都道府県
			5 市
			6 町
			7 村
			8 社会福祉協議会
			9 身体障害者福祉協議会
			10 その他
33	健康産業	健康産業	1 スポーツ関係施設
			2 フィットネス施設
34	その他	その他	1 職業センター
			2 リハ関連企業
			3 一般企業
			4 補装具作成施設
			5 訪問看護ステーション(老人訪問看護ステーション)
			6 介護サービス企業
			7 自営・開業
			8 自宅(勤務しているが自宅会員登録)
			9 休業中(会員だが休業しているもの)
			10 その他
35	不明		1 海外
			1 不明

会員異動届

注) 自宅住所を(室番号まで)を必ずご記入下さい。
 自宅会員になった場合は、自宅住所の都道府県理学療法士会に所属となります。自宅住所(室番号まで)・電話番号を必ずご記入ください。
 海外に異動の場合、都道府県士会に所属せず海外会員になることも可能です。
 海外会員になる方は、海外住所(海外勤務先・海外自宅)・国内住所(何らかの連絡がとれる住所)・Eメールアドレスを必ずご記入ください。
 休会中に、自宅住所・氏名等の変更がある場合にも、異動届を提出下さい。

県外異動・県内異動 (○で囲む)	在籍状況	在会・休会 (○で囲む)	提出日	平成 年 月 日				
	変更事項	改姓・自宅住所・勤務先 (○で囲む)	異動日	平成 年 月 日				
フリガナ			旧 姓	会員番号(右詰めでご記入ください)				
氏 名	姓	名	印					
所 属	県内異動	士会所属	入会年度	S・H 年度				
	県外異動	士会から 士会へ	新人教育プログラムの修了	済・未 (○で囲む)				
自 宅 自宅会員は 必ず記入	〒 [][][][] - [][][][][]							
	住所		都道府県					
	電話			FAX				
Eメールアドレス								
勤 務 先 自宅会員の場合 ”自宅” と記入する	フリガナ							
	名 称							
	所属部署							
	〒 [][][][] - [][][][][]							
	住所		都道府県					
電話			FAX					
施設区分	I A群	—B群	II	—				
会費納入	本部会費 年度納入済		連絡事項					
	都道府県士会費 年度納入済							
クレジットカード発行 (○で囲む)		済 未						

※ 口座変更を希望される場合は
 クレジットカード裏面コールセンターまでご依頼下さい。

<都道府県士会確認欄>

<士会受付番号> _____

_____ 士会事務局長 _____ 印 _____ 平成 年 月 日

< 個人情報について >

当届用紙より得た情報は、下記の目的以外には使用しません。

1. 名簿管理・発行
2. 協会が発行する機関紙等の発送、及び会員皆様の福利厚生を目的としたご案内等の発送
3. 会員の分布状況の把握 (集計数値を使用します)

社団法人 熊本県理学療法士協会 退 会 届

社団法人 熊本県理学療法士協会長 殿

この度 私は、社団法人熊本県理学療法士協会を退会しますのでお届け致します。

提出日 平成 年 月 日

退会日 平成 年 月 日

氏 名	印	会員番号	
勤 務 先			

※ 勤務先は熊本県理学療法士協会員としての勤務先をご記入ください。

※ 自宅会員の場合、「自宅」と記入ください。

